

< 20 - 04 >

2020年02月

先生各位

「ALP(アルカリフォスファターゼ)・LD(乳酸デヒドロゲナーゼ)」 IFCC 法 新規受託のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、ALPおよびLDの測定方法について、日本臨床化学会より「2020年4月から現在のJSCC法をIFCC法へ変更する」と発表がありました。

これに伴い、弊社でもIFCC法による測定の準備が整いましたのでご案内いたします。

なお、現行のJSCC法を1年間は受託継続する予定ですが、できるだけ早い時期での移行をおすすめいたします。

謹白

記

■新規受託項目:

ALP_IFCC [項目コード:0017]

LD_IFCC [項目コード:0018]

■新規受託開始日:

2020年 4月 1日(水)受付分より

<ご案内>

- ・ 項目コードが新規登録となるため、電子カルテ・健診システム等をご利用の際は、お使いのメーカーのサポート窓口へ項目紐付けの依頼をご連絡ください。

以上

※ 裏面をご覧ください。

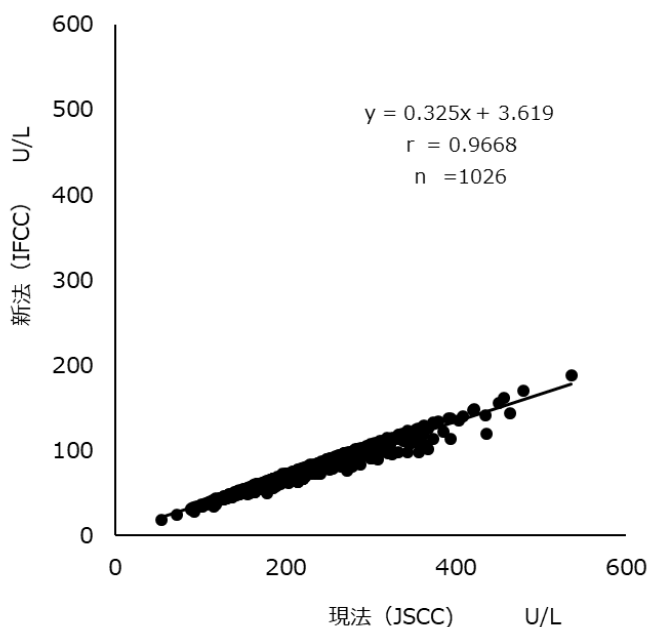
●検査概要:ALP_IFCC

現行の JSCC 法では、小腸型 ALP の反応性が高い処方となっております。血液型 B,O 型での食事の影響による偽高値があり、臨床的意義が認められない高値が出現する場合があります。

新規受託する IFCC 法では、疾患と無関係な上昇が軽減し、肝・骨疾患の臨床的意義が向上します。なお、JSCC 法に比べ測定値が約1/3程度となりますので、結果のお取り扱いにご注意ください。

| 新規受託開始項目 (IFCC 法) | | ご参考:現法(JSCC 法)の内容 |
|-------------------|---------------------|-------------------|
| 項目コード | 0017 | 0011 |
| 検査項目名 | ALP_IFCC | ALP |
| 検査方法 | IFCC 法 | JSCC 標準化対応法 |
| 検体量/保存方法 | 血清 0.5mL/冷蔵 | 同左 |
| 基準値 | 38 ~ 113 U/L (成人男女) | 110 ~ 350 U/L |
| 所要日数 | 1 ~ 2日 | 同左 |
| 報告下限値 | 1 以下 U/L | 5 以下 U/L |
| 報告上限値 | 999, 999 U/L | 同左 |
| 報告桁数 | 整数 | 同左 |
| 緊急報告基準値 | 設定なし | 同左 |

《IFCC 法と JSCC 法の相関》

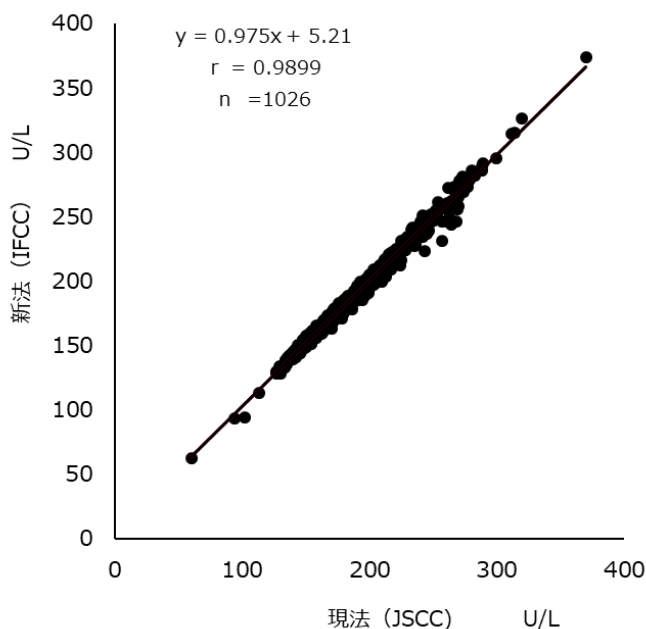


●検査概要:LD_IFCC

現行の JSCC 法と新規受託項目の IFCC 法を比較して変更前後の測定値の差は軽微であり、健常者の測定値は許容誤差範囲内の変化であることから、基準値の変更はございません。

| | 新規受託開始項目 (IFCC 法) | ご参考:現法(JSCC 法)の内容 |
|----------|-------------------|-------------------|
| 項目コード | 0018 | 0012 |
| 検査項目名 | LD_IFCC | LD |
| 検査方法 | IFCC 標準化対応法 | JSCC 標準化対応法 |
| 検体量 / 保存 | 血清 0.5mL/冷蔵 | 同左 |
| 基準値 | 120 ~ 240 U/L | 同左 |
| 所要日数 | 1 ~ 2日 | 同左 |
| 報告下限値 | 5 以下 U/L | 同左 |
| 報告上限値 | 999, 999 U/L | 同左 |
| 報告桁数 | 整数、有効6桁 | 同左 |
| 緊急報告基準値 | 1000 以上 U/L | 同左 |

《IFCC 法と JSCC 法の相関》



<IFCC 法を用いた測定値の注意点>

日本臨床化学会の資料には、次のように記載されています。

ALP

- 測定値が(現行の JSCC 法に比べて)1/3程度の数値になります。
- 「換算係数」は次の通りです。
 - ・ J S C C 法測定値から I F C C 法測定値に換算：0.35倍
 - ・ I F C C 法測定値から J S C C 法測定値に換算：2.84倍
- 変更前後の値の換算には限界があります。

I F C C 法に変換することで血液型 B, O 型では小腸型 A L P を含む検体で低めになり、逆に妊婦では胎盤型 A L P が増加することにより高めに測定されます。

LD

- 変更前後の測定値の差が軽微であり、健常者の測定値は許容誤差範囲内の変化であることから、現状の共用基準範囲を変更する必要はありません。
- 「換算係数」については、『換算せず、そのままの測定値を使って下さい。』
- L D 5 優位検体では現行の J S C C 法に対して低めの活性になります。

(L D 5 が 5 0 % の症例では測定値の差は 2 0 % 未満)

【参考 URL】

一般社団法人 日本臨床化学会 「ALP、LD の測定方法の変更に関するご案内」
(<http://jscc-jp.gr.jp/>)